

外来 3・4 階 内視鏡部

3 階：皮膚科

4 階：消化管外科、肝胆膵・移植外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、麻酔科、形成外科、小児外科、内視鏡部

1. 部署の特徴

1) 外来 3・4 階

外科系の診療科は 9 診療科あり、1 日平均の外来患者数は 3・4 階合わせて 1000～1300 名程度である。主な看護業務は、診療や検査・処置の介助、検査・手術の説明、乳腺外科手術後患者のリハビリやリンパ浮腫指導、自宅療養に関わる生活支援や IC 時の意志決定支援など、あらゆる面から在宅療養サポートを行っている。

療養支援では、サポートが必要な患者さんを病棟や地域ネットワーク医療部とも連携し、スタッフ間で情報共有を図り個々のニーズに応じた支援に努めている。

また皮膚科外来では、看護師による自己注射指導などの治療サポートや、病棟連携のもと、パンフレットの充実を図り患者指導にあたっている。

形成外科外来では以前まで手術室で実施していたレーザー治療を新設した外来治療室へ全て移行し、毎日実施しております。脱毛や蒙古斑、血管腫等の治療や自費での治療を 90 件～130 件／月程度行っている。

リンパ浮腫外来では、がん看護専門看護師とリンパ浮腫療養指導士が、医療徒手リンパドレナージュや弾性着衣の装着、セルフリンパマッサージの指導や日常生活指導、支援を行っている。

消化管外科外来では、皮膚・排泄ケア認定看護師がストーマ外来において患者の社会復帰支援や合併症予防、スキントラブルのケアや指導を行っている。また、腸瘻増設後初回外来では皮膚のトラブルや在宅での管理状況を確認し医師と外来看護師が連携しながら指導を行っている。

その他、肝胆膵移植外科と呼吸器外科では、移植コーディネーターと情報共有し臓器移植前後の療養指導、相談、支援などを行っている。

2) 内視鏡部

内視鏡部では、入院・外来を問わず消化管、胆膵疾患および呼吸器疾患の内視鏡的診断と治療を行っている。消化器内視鏡の領域では、上部・下部消化管のスクリーニング検査に加え、早期消化管がん・消化管狭窄・炎症性腸疾患・膵炎・胆管結石・悪性胆膵腫瘍などに対する内視鏡的腫瘍切除術、バルーン拡張術、ドレナージュ術、ステント留置術などの治療内視鏡を行っている。さらに、吐血や急性腹症に対する緊急内視鏡検査は、年間を通して 24 時間体制で対応している。

気管支鏡部門では、呼吸器内科・外科スタッフにより、肺がん・慢性呼吸器疾患を中心に気管支鏡を用いた診断・治療を行っている。

内視鏡検査は、侵襲が大きく苦痛を伴う処置や緊急事例も多く、迅速かつ安全、安楽に検査や治療が進むよう、関連部門のスタッフが協働して業務に取り組んでいる。